

\*セリフは話しやすいようにアレンジをしてください。また、あくまでも一例なので進め方にアレンジを加えていただいて結構です。教材に取り組みれば力は上がります。  
初めてでどのように話したら良いか分からない人は、この台本を読み上げる形で進めていただければと思います。

## 【1 ページ】

日本語は「意味のかたまり」でできています。例えば、「ごりらがたべた」という文は、「ごりらが」「たべた」というように2つの「意味のかたまり」でできています。

(「ごりらがたべた」という文を紙の余白に書き、「ごりらが | たべた」のように線を引く。)

この「意味のかたまり」を探していく練習をしていきましょう。  
では、(1)の文を見てください。「ぼくがかいた」という文ですね。この文を「意味のかたまり」で切ってみてください。

(お子さんにやってみてもらおう。手が動かない場合は教える。)

<合っていた場合>

すばらしい、大正解です。  
では、その調子で(5)まで切ってみましょう。

<間違っていた場合>

おいしい、でもその調子で大丈夫。  
「ぼくが かいた」という文ですね。  
もう一度考えてみてください。  
(できるだけやり直す、どうしてもできなければ教える。)  
はい、ではこの調子で(5)まで切ってみましょう。

((5)まで終わるのを待つ。)

<全部合っていた場合>

すばらしい、全部完璧です。  
では、次の練習にいきましょう。

<間違いがあった場合>

すばらしい、だいぶできていますね。  
○と○番の問題以外は完璧です。○と○をもう一度考えてみてください。ちなみに○は何本、○は何本の線が引けますよ。

(全部合うまで繰り返す。)

(ページはそのまま次のトレーニングに入る。)

では、次の練習に入ります。さっき話した「意味のかたまり」。この「意味のかたまり」はそれぞれ別の「意味のかたまり」に繋がっています。例えば、さっきの「ごりらが | たべた」であれば、「ごりらが」というかたまりは「たべた」というかたまりに繋がります。

(「ごりらが」から「たべた」に矢印を引く。)

「たべた」というかたまりは文の最後なので、どこにも繋がりません。このように一番後ろのかたまり以外は必ずどこかのかたまりに繋がります。

では、さっきの「意味のかたまり」に分けた5つの文を見てください。さっき分けたかたまりもどこかのかたまりに繋がります。それぞれのかたまりがどのかたまりに繋がるのか矢印を書いてみましょう。

<自分でできそうな場合>

(お子さんの様子を見守る。)

<手が動かない場合>

これはなかなか難しいですね。例えば、「ぼくが、どうした」のでしょうか。

(このような要領で疑問を投げて思考を補助してあげる。)

はい、できましたね。すばらしい。では、答えを確認していきましょう。

〇と〇と〇番の問題以外は完璧ですね。「〇〇」がどこに繋がるかももう一度考えてみてください。

(全部できるまで繰り返す。間違えたところを責めるのではなく、できたところを褒めつつ間違えたところを指摘するイメージで声をかける。)

良くできました。では次のページにいきましょう。

## 【2 ページ】

では、次のページですね。さっきのページより難しいですが、やり方は同じです。それでは「意味のかたまり」で切るところからやってみましょう。

（お子さんが終わるまで待つ。）

はい、良くできました。答え合わせをしていきましょう。

（以下の例のような形で答え合わせをする。）

1は完璧です、すごい。2は、あと1ヶ所、線が引けますね。3は、1ヶ所変なところで切っているのと、もう1ヶ所切れますね。4は余計なところで1ヶ所切っています。それ以外は全部合っていますね。では、今の部分を考え直してみましょう。たくさん間違えて、間違えから学んでいきましょう。

（以上のようなやり方で全部できるまで繰り返す。）

すばらしい、よくできました。では、今度は「意味のかたまり」を別のかたまりに繋げていきましょう。さっきと同じように矢印を引いてみてください。

（お子さんが終わるまで待つ。）

はい、できましたね、よく頑張りました。では、答え合わせをしていきましょう。

（以下の例のような形で答え合わせをする。）

1は、「みちばたに」から矢印が出ていないけど、これはどこに繋がりますか。  
2は、「たねを」がどこに繋がるかももう一度考えてみてください。「たねを、どうする？」と考えると良いですよ。  
3は、「ゆたかは女の子」と繋げてしまうと、「ゆたかが女の子」になってしまいますね。「ゆたかは、どうした？」と考えてみてください。別の場所に繋がるのが分かりますよ。

（できるまで繰り返す。）

よくできました。大変だったと思うけど、しっかり頑張ってくれて嬉しかったです。では、できそうなら次のページにいきましょう。

【3 ページ】

では、次は聴く力です。しっかり耳を使っていきましょう。

今から数字をいくつか読み上げるので、その数字を覚えてください。20 秒後に「書いてください」と合図を出すので、覚えた数字を書いてください。

準備はいいですか。(1) からいきますよ。

「2 (に)・9 (きゅう)・8 (はち)」

(20 秒ほど待つ。)

はい、では、書いてください。

(書き終わるまで待つ。)

では、答え合わせをします。答えは、「2・9・8」です。できましたか。

<正解の場合>

すばらしい、しっかり聞いて覚えていましたね。この調子で頑張りましょう。

<不正解の場合>

少し難しかったですね、繰り返していけばできるようになるから大丈夫ですよ。次はしっかり覚えられるように頑張りましょう。

ちなみに、2・9・8は「にくや」とも読めますね。お肉屋さんですね。気が付きましたか。こういうものを語呂合わせと言います。身近にある語呂合わせを探してみるのも楽しそうですね。

では、次の問題にいきます。(2) のところに書いてください。

「8 (はち)・0 (ぜろ)・8 (はち)・3 (さん)」

(先ほどと同じように答え合わせまで行う。)

ちなみに、これは「やおやさん」と読めますね。気が付きましたか。

では、次の問題にいきます。(3) ですね。

「0（ぜろ）・1（いち）・0（ぜろ）・2（に）・8（はち）・3（さん）」

（同じ要領で答え合わせを行う。）

ちなみに、これは「おとうふやさん」でしたね。気がつきましたか。このように数字を見たら語呂合わせができないか考えるのも良いですね。数字に強くなります。

では、（4）にいきます。今度は短い文を読みます。それを紙に書きとってください。聞きながら書いても構いません。文は2回続けて読みます。漢字は使わなくても良いですが。カタカナの方が良いものはカタカナで書いてください。

では、（4）を読みます。

「ほんをよみましょう。」

「ほんをよみましょう。」

（書き終わるのを待つ。）

はい、では答えを言います。

「ほんをよみましょう。」

<正解の場合>

すばらしい、しっかり聞けましたね。この調子で頑張りましょう。

<不正解の場合>

（以下の例のように直す。）

おしいですね。もう一度読むと「ほんをよみましょう。」です。このときの「を」は「お」ではなくて、「を」と書きます。「ほんを」というように「なにになにを」というときですね。

（「ほんを」と余白に書く。）

それ以外は良くできています。この調子です。

では、（5）にいきましょう。読みます。

「おとうとはようちえんへいきました。」

「おとうとはようちえんへいきました。」

(先ほどと同じ要領で答え合わせを行う。)

良いですね、では最後の問題にいきます。読みます。

「にわとりがコケッコーとなきました。」

「にわとりがコケッコーとなきました。」

(先ほどと同じ要領で答え合わせを行う。「コケッコー」はカタカナで書かせる。)

はい、これがしっかりできると聞く力がついて先生の言っていることが良く分かるようになります。この調子で頑張ってください。では、次のページにいきます。

#### 【4・5 ページ】

では、次は文を作る練習をします。いろいろな言葉を使って、たくさん文を作ることができたらすごいですよね。たくさん文を作っていきますよ。

まず、最初の(れい)の部分を見てください。上の枠に「だれが」と「どうする。」という言葉が書いてあります。そして、下に「ぼくが」「うたう。」と書いてありますね。このように、「だれが」「どうする」のか、好きに文を作ってみてください。「おにいさんが」「しゃべる」とかでもいいですね。では、2 つ目の枠の空いているところに「だれが」「どうする。」のか文を作ってみてください。

(理解できていれば見守る。良く分かっていないのであれば、例をいくつか出して、自分で出せるまで導く。それでも難しければ、大人が文を作ってそれを写させる。)

はい、書けましたね。すばらしい。

(「が」を使っていなかったり、「どうする」の形になっていなかったりする場合は、直してあげる。)

では、次の欄を見てください。今度は「だれが」「どうした。」になっています。さっきは「どうする。」だったので、少し変えないといけませんね。例えば、「おじさんが」「走った。」とかですね。「おじさんが」「走る。」では×なので気をつけてください。では書いてみましょう。その下は「だれは」「どうする。」ですね。「が」ではなく、「は」になりました。それも文が作れそうなら作ってみてください。では、どうぞ。

(先ほどと同じ要領で書かせる。)

良くできました。では、次のページに行きましょう。今度は「だれ」ではなく「なに」に変わっていますね。人でないものを使わないといけません。できますか。さっきと同じように文を作ってみましょう。

(できそうであれば見守る。文型が違うようであれば、欄の上の言葉をしっかり見るように指示する。)

はい、良くできました。これからも色々な文をたくさん作っていきますよ。

【6 ページ】

はい、では次は算数の問題をお絵かきしながら解いていきましょう。まずこの「たろうくんの」のところから問題文を声に出して読んでみましょう。

(声を出せない環境であれば、黙読をさせる。)

(1) の文も声を出して読んでみてください。

(読み終わるのを待つ。つかえてうまく読めないときは読んであげて真似をさせる。)

はい、良く読めました。では、絵を描いてみましょう。うまく描く必要はありません。お皿だよ、ハンバーグだよということが分かれば大丈夫なので、ただの丸でも OK です。文字を使っても良いので、「たろうくん」と文字で書いても良いですよ。では、やってみましょう。

(描き終わるのを待つ。ハンバーグの数が足りないなど、ミスがあれば、「たろうくんのハンバーグの数はいくつだったでしたか」などと指摘をする。)

はい、良く書けています。では(2)の問題を声に出して読んでみましょう。

(読み終わるのを待つ。)

では、できそうかな。□の中に数字を書いてみましょう。

(「くうらん」「ごうけい」という言葉が分からなければ説明をする。)

では、答え合わせをします。

ごうけいは4、ちがいは2です。

できましたか。

絵を描いてみるとすごく分かりやすくなりますね。これからも絵を描きながら文を理解していきましょう。



## 【7 ページ】

(タイムを計れるものを用意しておいてください。秒まで計れれば何でも構いません。)

最後は計算の練習です。簡単な計算をどれだけ正確に速くできるかで算数の計算力が決まります。最初は遅くてもいいので、少しずつ速くできるように頑張りましょう。

これはマス計算と言います。左側が足し算、右側が引き算です。左は上の行に2と書いてあるので、下の数に2を足して行ってください。3の右にある空欄には $3 + 2$ の答えを書いていきます。8の右の空欄には $8 + 2$ です。

(理解していなかったら、「 $3 + 2$ はいくつ。ここにそれを書くんだよ。」のように具体的に説明していく。)

左側は、上に10と書いてあるので、その下の3の隣には $10 - 3$ の答えを書きます。

では、まず名前を書いてください。書けたら、鉛筆を置いてください。「よーい、スタート」の合図で始めます。

「よーい、スタート！」

(タイマーをスタートし、終わったら止める。)

はい、終わりましたか。タイムは〇分〇秒ですね。右上に書いてください。では、答え合わせをしましょう。

(答え合わせをする。以下の例のように褒める。)

すごい、しっかり正確にできましたね。この問題以外は完璧です。どこが違うか分かりませんか、分かったら直してみてください。

タイムも最初の時より〇秒も早くなりましたね。この調子で頑張ってください。

【終了】